

「小・中学校の連携を通し、豊かな心をはぐくむ道德教育の推進」

～生命を尊重し、よりよい生き方を考える児童・生徒の育成をめざして～

I 研究の内容

本年度は文部科学省指定の「道德教育実践研究事業」及び山梨県教育委員会指定の「小中連携ふるさとやまなし道德教育推進事業」を中心に研究を進めてきた。

また部会研究会として「授業研究部会」と「実践研究部会」の2部会を設け、小学校との共通認識のもと同一歩調にて取り組みを進めた。

1 道德教育の指定校としての研究

(1) 文部科学省と山梨県教育委員会の指定により「道德教育」について、道德の授業の実践および道德的実践活動を推進していくこととする。

- ・道德の授業の積極的実践，研究授業の実施
- ・道德の全体計画と年間指導計画の確認および見直し
- ・道德教育の充実と道德の授業の地域，保護者等への公開
- ・「心のノート」の活用（学校，家庭，地域の連携の在り方の実践）
- ・生徒を対象にした「道德アンケート」の実施と検証，新たな対応の考察。
- ・道德の授業等への地域の人々や保護者の積極的な活用

(2) 小中連携 ふるさとやまなし道德教育推進事業に関すること（授業以外）

	三つの柱	価値項目	具他の重点項目
①	規範意識	礼儀 2 - (1)	あいさつのできる子ども
②	生命尊重	生命尊重 3 - (1)	自分を大切にし，相手（人・物・自然）を思いやる子ども
③	社会をより良く	郷土愛 4 - (8)	ふるさとを大切に思い，美しい地域づくりをする子ども

上記を塩山北中学校区（4校）における共通の項目として取り組むことにした。

ア 学校，家庭，地域との連携のための取り組み

- ・新藤京子先生の命の講演・小林清美先生のメッセージコンサート
- ・命の標語の募集や家庭・地域への掲示

イ 今までの各種関連行事との連携

- ・クリーンアップ，有価物回収，保育実習，萩の里訪問，公民館清掃
- ・義務教育9年間を見通した年間指導計画の作成
- ・道德の実態を見取るためのアンケートの実施
- ・小中の交流として，エコキャップやアルミ缶の回収の呼びかけ

2 昨年度までの継続研究（確認と実践）

- ・開かれた学校づくり関すること（学校評価などについての実践と検討）
- ・目標に準拠した評価（絶対評価）についての研究と実践

II 成果と課題（具体的な取り組み）

1 道徳教育の指定校（小中連携ふるさとやまなし道徳教育推進事業）の研究

(1) 小中連携として工夫したことは、「授業研究部会」と「実践研究部会」を組織し各校の取り組みや情報交換を行い、具体的行動の統一を図る。またブロック交流では4校共同で指導主事を招聘して研究を深め、事業の方向性を確認した。

また「小中連携推進協議会」を設立し、地域の区長・公民館長・民生委員・児童委員・PTA会長・保育所長・教育委員会・教育事務所・校長・教頭・研究主任・部会長が参加し地域を巻き込んだ道徳教育の広がりを図った。

(2) 道徳の指定校として、日々の道徳の授業の充実および道徳的实践活動の推進を実施してきた。授業参観日は2・3年全クラスにおいて道徳の授業公開を行い、3学期には1学年も道徳の研究授業を実施した。何よりも実践を通して、担任はもとより、全教師の力量を高めるとともに、生徒の道徳的心情養うことができたといえる。

さらに、道徳的实践活動においては、吹奏楽部の老人ホーム（萩の里）慰問演奏など、今まで実施してきた活動をさらに充実する方向で数多くの実践をつむ事ができた。

(3) 研究課題の設定

①生命を尊重する心や自立心をはぐくむ道徳教育 ②体験活動及び特別活動をはじめとした各教科等と道徳の時間との関連表の作成と指導の工夫 ③学校段階間、異校種間の連携体制の在り方 とした。

2 研修のために

道徳のこの指定校は、県内地域ごと5地区が指定された。そこで互いの情報交換を行うとともに、「先進校視察」というかたちをもって職員が他校の道徳授業・研究発表に参加し、研修を深めることができた。また、「ブロック交流」として年三回の研究会には山梨県教育委員会・峡東教育事務所の指導主事を招聘して指導を受けた。

3 昨年度までの継続研究（確認と実践）

7年目となる学校評価（学校診断調査）の全生徒、保護者、教職員への実施およびその集計と説明を実施した。7年目を経過した実績をうけて、設問等の見直しを行い、来年度の評価に生かしていく。

III 成果物

- ・研究授業における道徳の授業案及び授業参観の授業案
- ・学校評価（本校の呼び方は学校診断調査）の改訂

（研究主任 古屋 勝之）